

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104191
法人名	有限会社スリー・ジー・ピー
事業所名	グループホーム えくぼ
所在地	愛媛県松山市西長戸町440
自己評価作成日	平成21年8月8

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

スタッフ全員がえくぼでの生活を楽しみながらケアすることで、利用者が安心して楽しく生活できるような明るい雰囲気作りに努めている。
介護度が高く、なかなか意思表示のできない方々が多いが、コミュニケーションの困難な方へのアプローチに力を入れるように努めている。
定期的に行なう、スタッフの親睦会が、お互いの信頼関係の構築に一役買っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所は、「する」「される」介護ではなく、互いに人格を認め合って利用者と共に生活することを大切にされている。意思表示が困難な方や、ベットに伏せることが多い方には特に目を注ぎ、やさしく言葉かけされたり、又、蒸しタオルで顔を拭き、常に身なりをきれいに整える等、細やかに対応されている。
●昨年、町内会に加入され、回覧板で地域の情報を得て、行事等にも参加されている。夏祭り「えくぼ祭り」には、地域のボランティアの方や学生等が今年も協力してくださった。又、体験学習で交流のある近隣の小学生達が水軍太鼓を披露してくださった。月に3回、地域のボランティアの方等のご指導で、茶道やパン、絵手紙の教室が開かれている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームえくぼ

(ユニット名) ふじ

記入者(管理者)

氏 名 兵頭崇将

評価完了日 平成 21 年 8 月 8 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をユニットのリビング、共有の玄関に掲示していつも確認できるようにしている。 勉強会にて抽象的な理念をスタッフ一人ひとりが具体的に考え再構築し、日々の業務の中で実践している。	
			(外部評価) 開設時に、代表者を中心に職員全員で理念を作成された。その後も職員の入れ替わり時等に、勉強会等を行い理念の周知徹底や方向性の統一を図っておられる。代表者は、「介護に行き詰まったら、理念に立ち返ることによって自ずと答えが出てくる」と、折に触れ職員に話されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所主催の催し物を開催し、地域の方々に参加して頂き、交流を深めている。 毎日の生活の中で、近くを訪れた方に利用者と共に積極的に挨拶等声を掛け、近所の小学生に名前を覚えてもらっている利用者もいる。	
			(外部評価) 昨年、町内会に加入され、回覧板で地域の情報を得て、行事等にも参加されている。夏祭り「えくぼ祭り」には、地域のボランティアの方や学生等が今年も協力してくださった。又、体験学習で交流のある近隣の小学生達が水軍太鼓を披露してくださった。月に3回、地域のボランティアの方等のご指導で、茶道やパン、絵手紙の教室が開かれており、調査訪問時の「パン教室」では、利用者、職員と一緒にパン作りを楽しんでおられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 交流会で訪れた地域の小学生や先生にグループホームはどういう施設で認知症とは実際に利用者さんがどのようにせいかつしているかを説明し、認知症への理解を深めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)	
			2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、最近では、 防災訓練と一緒に参加してもらい、スタッフでは、な かなか気がつかない避難経路等で、様々なアイデアを 頂くことができた。	
			(外部評価)	代表者は、今後さらに、会議時に「認知症の介護教 室」を開き、認知症への理解を深めていきたいと考 えておられた。又、今後はすべてのご家族に会議への出 席を働きかけられたり、又、交流のある他の事業所と 互いに出席し合うことも考えておられた。今後も、会 議のご意見を貴事業所のさらなるサービスの質向上に 活かしていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議にて、市町村の介護保険課の担当者や地 域包括支援センターの方に参加して頂き、意見交換等 を行なっている。	
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			禁止の対象行為になっていないか、常にスタッフ同士 代表、管理者と相談しながらサービスを実施してい る。又、具体的な行為については、今後、勉強会を開 催予定である。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、玄関は開放されており利用者が自由に 入りされており、玄関前のアプローチで過ごしておら れる方が見受けられた。職員の希望もあり、全国GH 協議会から身体拘束についての資料を取り寄せ、勉強 会を開催される予定となっていた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			高齢者虐待防止法を学ぶ機会を持っていないが各スタッフが注意を払い事故防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			現在は十分に活用できる支援を行なえていないが、月に1回の勉強会で今後取り組んで生きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			入居（契約）、退去（解約）の際は、家族、キーパーソンとなる方と十分な話し合いにより、不安や疑問が無いように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			玄関に苦情箱を設置し、意見を聞けるようにしている。 運営推進委員会の委員に家族さんになっていただき、運営推進委員会を通じて外部者に意見を表せるようにしている。	
			(外部評価)	
			代表者は、「ご家族の声を心で受けとめ、ご家族に寄り添い、ご家族の力になりたい」と話しておられた。定期的にご家族に送付している広報誌の写真は、ご家族が遠方に住んでいる利用者を優先的に載せるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			特別な機会は設けていないが、個別に対応し、月々のユニット毎の会議で繁栄できるような話し合いの場を設けている	
			(外部評価)	
			ミーティング時に職員からいろいろな提案が出されており、外出の計画や居間の壁面飾り、夏祭りの出し物等、アイデアを出し合い採り入れて行われている。代表者は、常に職員とかかわり、職員の意欲を感じておられ、又、定期的に親睦会を開催し、意思の疎通を図っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			交代性勤務の為、なるべく負担の少ない勤務になるように、希望休などを優先的に勤務シフトを組み、各自が向上心を持って働けるような職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			勉強会の実施や、研修会への参加の奨励を行い、働きながらトレーニングできることを進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			毎年の相互評価事業の積極的な参加や、研修会で知り合いになった同業者の方々との意見交換を行い、サービス向上させていく取り組みを行なっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居と同時に本人の聞き取りを行なうケアプランを作成し、実践している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の契約時に家族から聞き取りを行い、良好な関係ができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族・本人の反応を見る限り、見極めれた対応ができている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と一緒に料理や作業をする中で、スタッフが知らないこと、昔の話や豆知識を教えてもらったりして、共に暮らすもの同士の関係作りを行なっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にホームでの話をしたり、アルバムを見せて家族と本人をつなぐように心掛けている。 夏祭りや、お月見会等、家族と利用者が共に楽しめる機会を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来て下さった際にはお茶を出し、楽しく過ごしていただけるようにしているが、こちらから何かしたりすることは特にしていない。 今後、ホームからも何かできないか考えていきたい。 (外部評価) 事業所で行うお月見会や夏祭り、お誕生会にはご家族を招待し、利用者と一緒に楽しめるような機会を作っておられる。管理者がご家族と連絡を取り、ご家族の協力を得て、8年ぶりに自宅に戻りご家族との時間を過ごされた方もある。又、代表者、職員と共に利用者が故郷を訪問した際には、地元の方の歓迎を受けた。入居前から利用されていた理髪店に行けるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとり個別のコミュニケーションではなく、グループで対応し、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者本人、家族が必要とするなら対応している。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本人や家族の方とよく話をして、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 (外部評価) 日々のケアの中で知り得た利用者一人ひとりの情報は、個別の記録や申し送りノートに記載し、職員間で共有されている。「必要なケアのアセスメント票」を作成し、「できること」「できそうなこと」等を踏まえて介護計画に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントを活用したり、家族さんとコミュニケーションをとり、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 定時のバイタルチェックや入浴、更衣時のチェックにて体の異常の早期発見に努めると共に、レクリエーションや畑作業等、利用者のできることをして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価)	
			月に1回のミーティングで職員同士で話し合い利用者の 対応について話し合い、介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			ご本人、ご家族の希望や職員の気付き、かかりつけ医 の意見等を採り入れ、介護計画を作成されている。介 護計画は、1ヶ月ごとにモニタリングを行い、3ヶ月 ごとに見直すようになっている。介護計画の書式内に 「ご家族さん記入欄」を新たに設け、要望等を記入し ていただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価)	
			日々の疑問等、“共通のノート”に各スタッフが書き 込みをし、ミーティングで意識統一している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価)	
			事業所で対応できること、家族さんに対応してもら うことを判断し、可能な限り対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価)	
			小学校やボランティア、他事業所等関わりのある資源 の把握に努め、活用できている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			入居後も可能な限り利用者が長年診てもらっている医 師に継続して診てもらっている。地理的理由等で困難 な場合は当事業所のかかりつけ医を紹介し、2週間に1 回の往診・受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			2週間に1回の往診時に利用者の状態、変化、気づきを 伝え、対応方法や、観察するポイントを聞き、実践す る。又、その結果を報告し、対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入退院時には、医療機関と利用者の情報交換を密に とっている。又、入院中も定期的に訪問し利用者の様 子や状態を確認しに行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			今後に備え、事業所としてスタッフはひとりの人間と して終末期に向けて対応していくか考え、又、具体 的に医療機関との連携、家族への対応、関わりにつ いて便中である。	
			(外部評価)	
			ご本人の状態変化時等、必要に応じてその都度、ご家 族やかかりつけ医、職員で話し合い、事業所が「でき ること」「できないこと」をご家族に説明されてい る。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 対応すべき内容の専門書を身近に置き、日頃から目に見えるよう知識としての吸収を心掛け、冷静に対応、処置を行い代表、管理者への連絡し指示を仰ぎながら、適切な処置を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練や、地域の方の話し合いを行い、催事の声掛け、参加で交流を図り、自然に理解できあえるようにしている。 (外部評価) 年に2～3回、避難訓練を実施し、利用者も参加しての夜間想定訓練も行われている。6月には、運営推進会議時に、出席者も参加して避難訓練を実施された。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) それぞれの生きてこられた背景を理解し、過去に残る強い記憶に働きかけ、“誇り”と思える“砦”を守り、その方の性格を鑑見ながら、踏み込み範囲を確認しての対応を心掛けている。 (外部評価) 事業所は、「する」「される」介護ではなく、互いに人格を認め合って利用者と共に生活することを大切にされている。意思表示が困難な方や、ベットに伏せることが多い方には特に目を注ぎ、やさしく言葉かけされたり、又、蒸しタオルで顔を拭き、常に身なりをきれいに整える等、細やかに対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者同士の日常の会話に注意を払い、その方の思いを知ることにより、スタッフとの関わりの中で、自然に自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) スタッフは時間に追われ利用者は時間がゆっくり流れるそのギャップを常に意識し、スタッフが決め付けるのではなく、その人の希望が叶うように促し、口出し過ぎないような支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服や髪型の変化に気付き、感嘆の言葉を投げかけ本人が喜びや嬉しさを感じ、おしゃれが楽しいと思えるような支援を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる範囲で調理する野菜を畑に採りに行って頂いたり、下ごしらえをして頂いたりする。利用者の好きなメニューの時は具材を見てもらったりしみずから、食べるのが楽しみになるよう声掛けをし、少しでも食べることに関わりが持てるように心掛けている。 (外部評価) 利用者の食が進むよう、利用者の希望を採り入れたたり、油ものはできるだけ昼食にする等、献立に配慮や工夫をされている。又、好みに応じて青味魚を白身魚に替えることもある。調査訪問時の昼食には、事業所の農園で利用者が収穫されたキュウリやナスが食卓を飾っていた。又、大根をすり下ろしたり、食器を拭いたりされている利用者がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 年齢、体重、運動量を考慮し、過去の食事の摂取の仕方を把握したうえで、偏らない食事を提供している。水分はお茶、水のみではなく、本人が好む飲み物、又、摂取できる方法で、広範囲に捉え状況に応じて支援を行なっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケア用のスポンジの使用、毎食後の義歯の洗浄、うがい等をそれぞれの状態に合わせてケアを行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			できるだけ利用者に声掛けを行い、早目にトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			排泄チェック表を作成し、パターンに合わせて声かけやトイレ誘導をされており、トイレに座れなかった方が、トイレに座って排泄できるようになった事例がある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴嫌いな方でも間隔があき過ぎないようにある程度は入浴日を決めて入浴してもらっている。その日入浴するかどうかは本人に直接聞き、調節している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			週に3回の入浴日以外でも、リウマチが痛むような方には、湯船で温まることができるよう支援されている。入浴を拒まれる方には、根気よく毎日声かけし、タイミングを見計らって支援されている。入浴前に、職員に髪を染めてもらう方もいる。	
			(自己評価)	
			エアコンでの居室内の温度調節や寝具の調節を行い、安心して休息したり、気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬を分ける際には必ず内用量を確認にして確実に服用できるように支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者のニーズに合った楽しみを普段のコミュニケーションを通して見つけ出しレクリエーションや外出等の気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望にそって外食や買物等を行なっている。天気の良い日には散歩に出かけたりしている。 (外部評価) 日常的に散歩や買い物に出かけておられる。不定期だった外出行事を、職員の提案で月に1回、定期的に実施されるようになった。気の合う利用者同士で外食に出かけられることもある。	 管理者は、「外出支援が職員の自己満足にならないよう、さらに利用者一人ひとりのバックグラウンドを探り、利用者個々の意に叶った外出支援に取り組みたい」と考えておられた。又、職員は、「地域の中で気軽に外出できる場所を探して、さらに外出の機会を増やしていきたい」と話しておられた。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の能力に応じて自分で管理されている方もいて、その方には、お金を所持したり使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が家族に連絡したいという訴えのある場合には取次ぎを行う等の支援を行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			花や掲示物等、季節に合わせた雰囲気を出すようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			主にリビングで過ごされる方が多く、テレビ鑑賞されたり、ぬり絵をされたり、利用者同士がお話されたり、思い思いに楽しく過ごせている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			家族から持ち込まれる家具や写真、仏壇等、本人らしい生活の場となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			手すりの配置やトイレ内の注意書き等、残存機能の活用ができるように心掛けている。	